

# 第9回インテリアプランコンテスト一次選考の結果発表

今年で第9回をむかえますインテリアプランコンテストの一次選考の結果発表です。

※下記にて作品写真と氏名を、発表しております。

当社が推し進めている、既存のライフスタイルでの住居空間(学生・独身・新婚・ファミリー)ではなく、

『もっと自由に楽しめる空間を作りたい』との思いを合言葉とし、

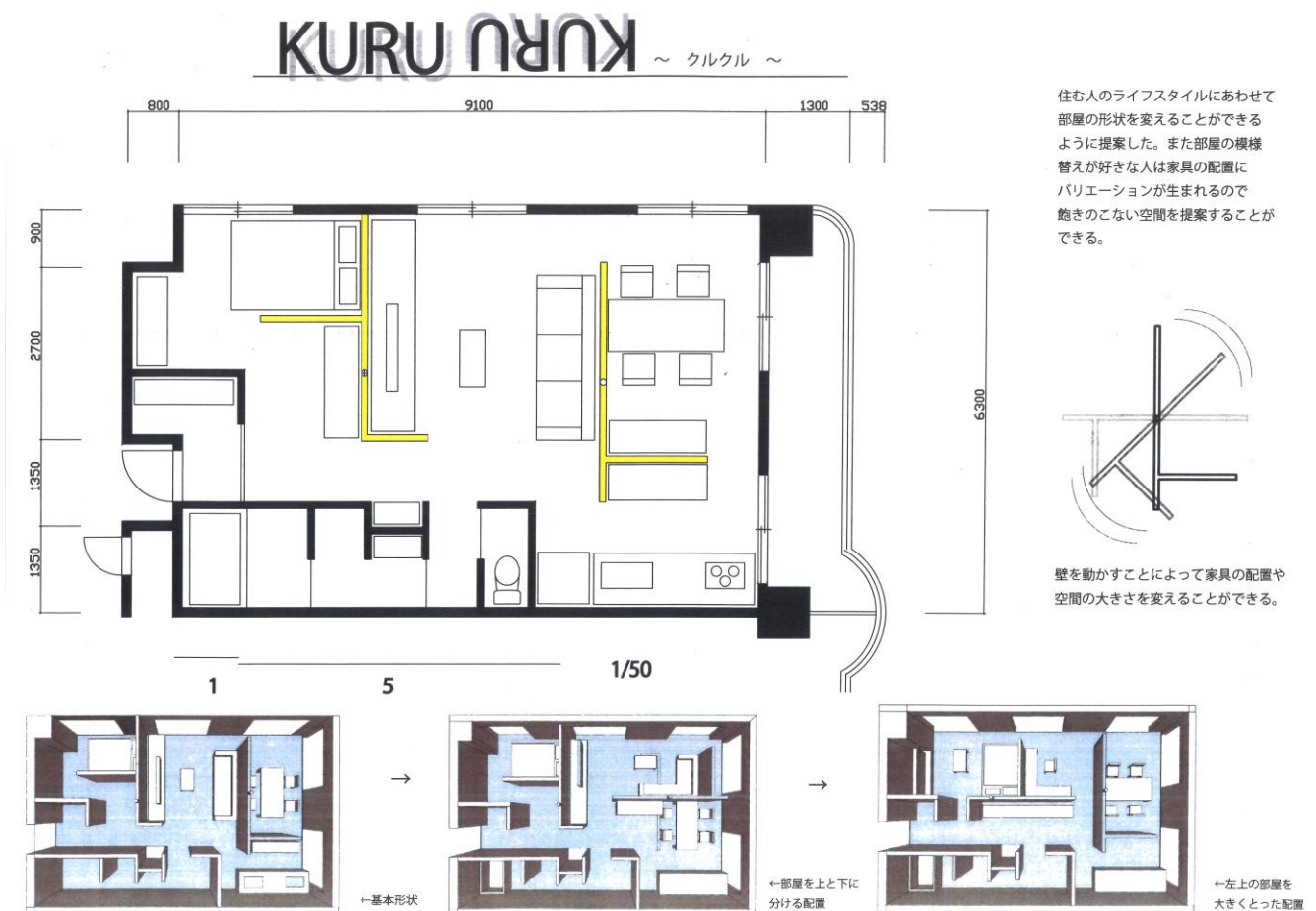
より個人の価値観・ライフスタイル(バイク・ペット好き等)を前面に押し出した自由な発想による作品での、沢山のご応募まことに有難うございました。

一次審査(図面審査)では10作品が選ばれ、二次審査(模型審査)で最優秀賞・優秀賞(2名)が選ばれます。

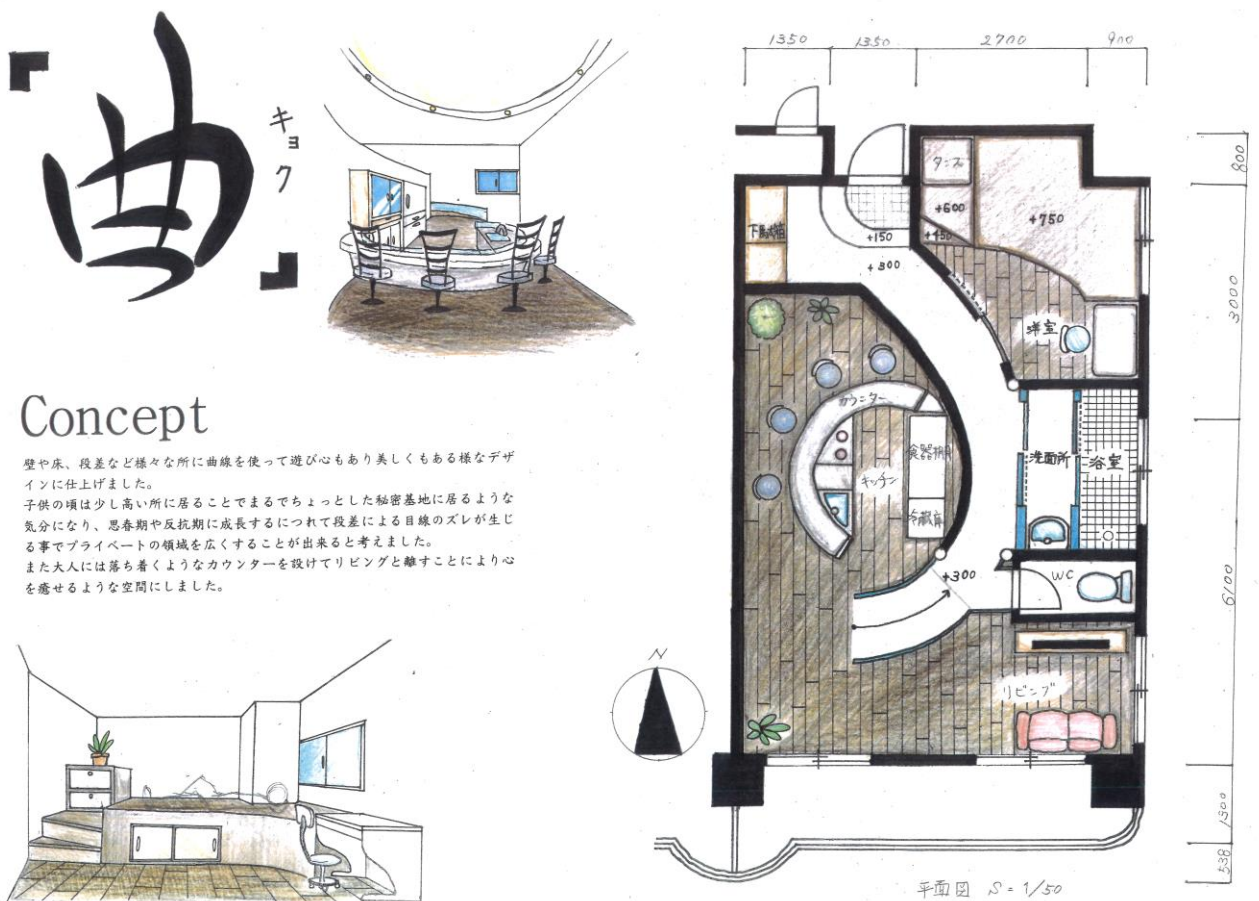
一次選考者の皆様には、後日連絡を取らせていただきますのでお待ち下さい。

## 一次審査通過者10名

### 林寿郎さんの作品



### 戸田恒輝さんの作品

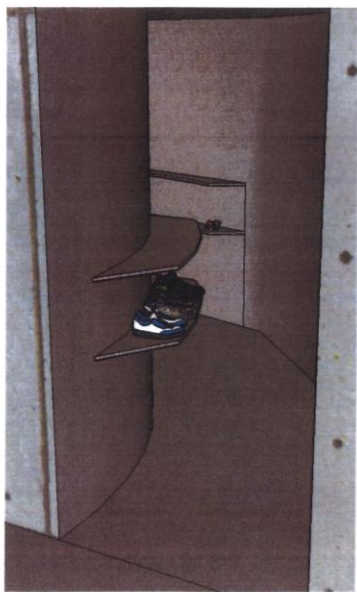


# 坂本倅輔さんの作品

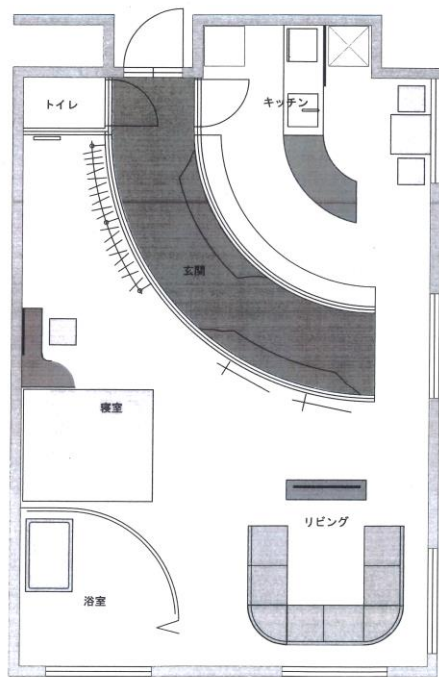
## 「存在」する家

### concept

テーマを「存在」において考えました。僕は靴など物をいっぱい買ってしまうのでそれを閉まってしまうとその物が生きてこないで、靴、洋服、乗り物すべてを目に入るようにしてみました。そうしてみると、服であればタンスに閉まっているとこんな服があったのかなど忘れてる時もあります。大きく設けた玄関には僕の大好きなスニーカーをたくさん置ける、置く際には仕切りがないので全部のスニーカーが目に入る、そこを毎日通れることは僕にとって住んでいて一番の楽しさであることだと思いました。



パース「玄関」



平面図 (1/50)

# 山田真大さんの作品

## 4つのイエとその庭の物語 ~Village House~

現代の集合住宅の住戸は、室同士の関係性が断絶され、そこに住まう住人の行動が室内で完結してしまうことが多い。家型とその周囲にできる庭をゆるやかなグラデーションでつなげることで、そこに住まう住人の行動の幅を広げ、豊かな空間を集合住宅の一室に創ることを試みた。



### イエ

#### ① Bath & Toilet

片流れコンクリートの家型で構成。仕上げは大理石でなされ、他とは異なる空間。

#### ② Japanese-Style

待庵のような入り口と、座ることのできる縁側のある和室。奥には逆勝手がある。

#### ③ Bed room

レンガで構成された洋館のような寝室。幅めの床材を用い、落ち着いた印象を醸し出す。

#### ④ Dining

木のバネルによる家型で、庭と緩やかにつながる。食事や軽作業のための場所。

### 庭

#### ① Entrance

和室とバスに挟まれてきた通路空間。和室横の空間に靴箱や物置が配される。

#### ② Living

前方の家形にテレビ棚が設けられ、背後の縁側には座ったり植栽を置いたりできる。

#### ③ Reading

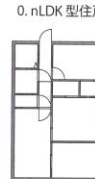
寝室とトイレに挟まれた場所。書棚が付属しており、読書のできるミニスペース。

#### ④ Kitchen

寝室の縁側に配されたキッチン。背後のダイニングには食器棚が埋め込まれている。

### Diagram

#### 0. nLDK型住戸



nLDKの住戸は、必要な機能を詰め込んだだけで、部屋同士のつながりがなく、住人の行動のパラダイムに欠ける。

#### 1. 4つのイエを配置



四隅に家型を配置し、水回りや寝室、ダイニングなどの落ち着いた空間を詰め込むことで空間にメリハリをつける。

#### 2. イエ周りの庭



家型の配置によってできた庭空間には、玄関やリビング、キッチンなどが配され、ひとつの空間で多様な行動が促される。

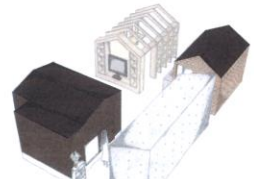
#### 3. イエと庭のパファ



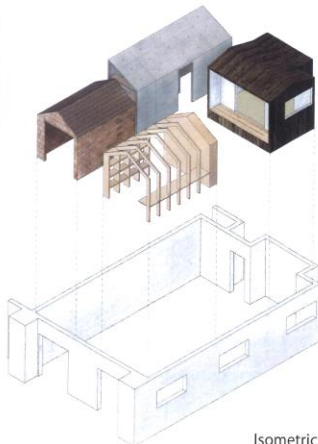
イエと庭の間には、縁側や棚、キッチンが配され、空間を緩衝するとともに、住人の行動に多様性を生み出す装置となる。



リビング・ダイニングを見る



エントランスより全体を見る



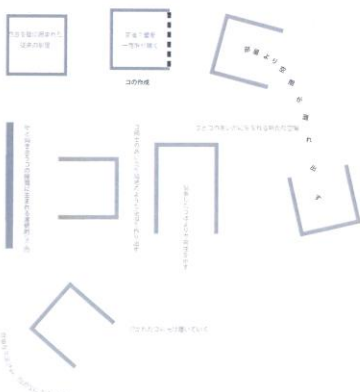
Isometric

# 谷直輝さんの作品

## 連続生活から始まるココ

部屋は本来四方を壁で囲むことで空間を作り出しているが、閉鎖された空間ではそこだけで完結してしまう。しかし、壁を一面取り除くだけで空間は解放され、漏れ出した空間同士が個々に作用して、連続した豊かな営みを形成していくのではなしかと考えた。

### image diagram



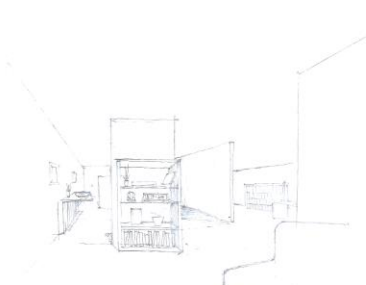
玄関から入ると、ココのあいだに挟まれた路地のような空間が続いており、その先の抜けの空間を意識させる。その路地の抜け方向を考えると窓からの採光が路地の奥までも届いており、薄暗さとココの壁に映し出される光のコントラストも同時に楽しむことが出来る。

路地空間を抜けると先ずキッチンにたどり着く。ダイニングと隣接しており、準備をするにも、料理をする人との距離感も近づく。

ダイニングとリビングも隣接しており、生活リズムによっては食事時間がぼろぼろになることも考えられるが同じ空間で生活出来る。

ベッドルームは部屋に対して45°の傾きを持って配置されている。これは部屋の角に対しての奥行きを広くし快適な睡眠空間を確保できると共に、その横に簡易な作業空間も確保でき、睡眠前にも自分の時間を楽しみながら余裕ある生活リズムをつかむことも可能となっている。

45°の傾きのベッドルームにより隣接するリビングも既存の枠に収まらず、広がりのある空間と玄関からの他の空間との連続の終着点としての昂揚感も楽しめるはずだ。



リビングより見渡す



S=1:100 planning

シャワールームへ行くまでの演出も自身の生活の心身を整えるための一部として重要な役割を担っている。本来部屋の中に内包されるはずの開口は、壁に依存せず、外光を路地を介して部屋中に満たすコの性質上、通路に惜しみなく開放され、コに光を映し、外部の景色を楽しみながらシャワールームまで進むことが出来る。

ホビールームは他の空間との兼ね合いと全体からの面積配分よりコアのような位置づけであり、常に生活の中心に自分の興味あることを空間的、感覚的に意識することが出来る。また長軸方向に抜けのある性質上、自分の趣味より構成された空間性がコのあいだを巻き込みながら漏れ出して全体の営みを形作っていく。

# 太田奨吾さんの作品

**ひろがる土間庭**

玄関からバルコニーをひとつにつなげる「土間庭」。そこは家族のリビングや子供の遊び場となる、外部空間につく中間領域である。「土間庭」で家族は多くの時間を共に過ごすことでお互いの変化や成長を身近に感じることができる。開放的で多様な暮らしがふれ出す、そんな居心地の良いすまいを提案する。

ダイアグラム  
水廻り + 土間庭 + 寝室 →

居住空間の中央に、玄関から開口部に向かって広がった土間庭を配置する。土間庭を介して水廻りと寝室とバルコニーがつながり、連続的な空間をつくりだす。

Plan S=1/50  
0 1 2 5m

# 内田千尋さんの作品

**二世帯住宅改メ**  
**ネコ隊住宅**

我輩のうちにはキャットウォークがある

コンセプトは、猫と共にのんびり気ままに暮らせる家です。マンションの一室という狭い空間をどのようにしたら猫と人間が共に快適に暮らせるのか、という点を中心に考えました。

- ★キャットウォーク  
猫の運動不足を解消するため。飼い主も下から見て楽しめる。キャットウォークへ行くには本棚で作られた階段が、中央付近の猫用螺旋階段を登る。
- ★玄関  
玄関から部屋に入る前に扉を設けることによって猫が逃げる心配をなくした。
- ★Fix窓  
普段猫があまり入れない所にFix窓を設け、こっそり覗けるようにした。

キャットウォーク (我輩の庭)

1:100

キャットウォーク部分

# 廣部早紀さんの作品

**趣味でつながる はじまりの家**

子どもが巣立ち、再び二人になった夫婦の第二の人生を謳歌させるための家の提案。二人になった夫婦のコミュニケーションの糧として趣味を二人で共有できる空間作りをこだわりました。自転車のお手入れやヨガ、読書など空間を共有することで、コミュニケーションも円滑化し、二人の趣味が2倍、3倍と楽しくなるはず。

①延長する部屋で共有する趣味

従来のカタチ + =

自分の時間を部屋で過ごす。趣味など自分のスペースをコモンスペースに広げていきます。趣味を共有することでコミュニケーションも生まれます。

②プライベート空間の確保

普段はオープンな空間でありながら、扉を閉めればプライベート空間になりお互いのプライベートを守ることができます。

③コモンスペースが中心の空間設計

生活動線がコモンスペースを介するようになっているので自然と二人が交わる機会が増えます。

④ムダのない空間設計

開放的！  
落ち着く！

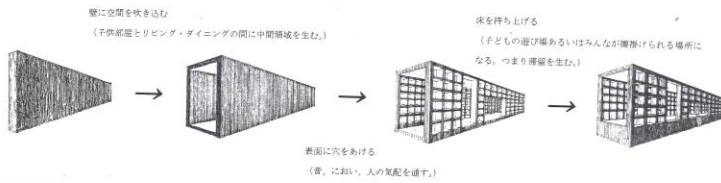
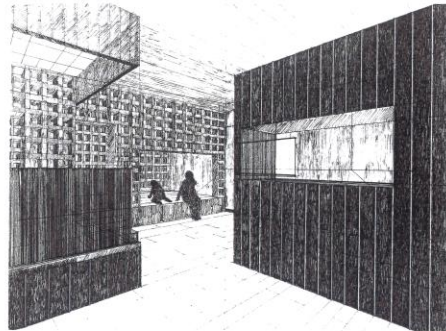
プライベート空間の天井を低めにし落ち着きを与え共にオープンスペースには抜けが生まれ開放感も感じられます。

# 和田雄佑さんの作品

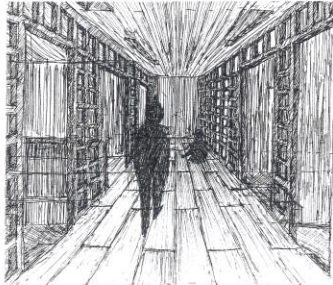
## The Wall for All

住居における「隔たり」について考えた。  
 部屋と部屋を隔絶するだけの1枚の壁を起点に以下のような機能を有する壁、そしてその壁を中心に据えたインテリアアパタンを提案する。

1. 視覚的にはおおよそ遮られていながらも家族同士の気配は感じられる。
2. 家族間のコミュニケーションを促進する。
3. 子どもの成長に応じて徐々にプライバシーが確保される。



Diagram

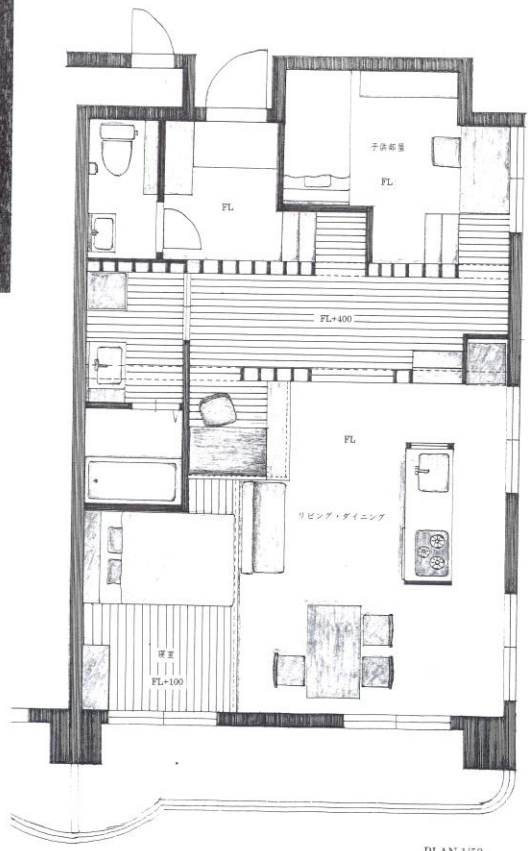


厚みを大きく(200mm)設定した格子が2層あることで、子ども部屋とリビング・ダイニングスペースとは視覚的にほとんど遮られているが音・におい・人の気配に対しては開いている。

壁としての機能も有するこの壁には家族各人の所有物が収納されるため、真は壁に隠れている(隠れている)物からその時々の子の興味や関心事について感じ取ることができるよう。逆に子が親の持つ書籍などを見て新しい分野に興味を抱きかけられるかもしれない。これも一種のコミュニケーションである。

成長と共に増えてゆく子の所有物は徐々に壁を埋めてゆき、それによって、小学校低学年から思春期にかけて高まるプライバシー要求の度合いの変化に対応してプライバシーが確保されてゆくことになる。

親と子を隔てるだけだった壁が、親と子の良好な関係を育む豊かな「壁」となる。ここに居住する家族全体の幸せな生活を心から願っている。



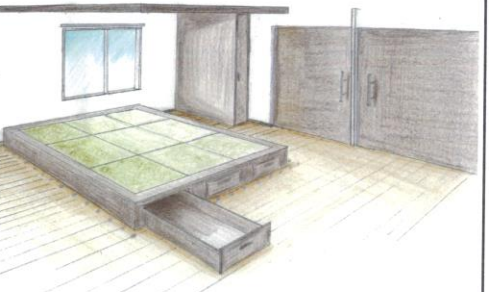
PLAN 1/50

# 頼涵農さんの作品



### 空間が動く部屋

私が考えるマンションは二人の若い社会人が自由に生活をエンジョイできるように空間の間仕切りを考えました。リビングには床面から350mm上がった和風のスペースを設置して、部屋全体を目渡せる空間が出来あがります。客人が泊まる時、専用収納から障子を取り出しつくと、約四畳半の広さの和室が出来ます。書斎と寝室の引き戸で仕切られていますが、リビングと書斎と寝室を大空間に早変わりさせることもできます。



リビング スケッチイメージ

フローリングに障子を設置しやすいよう、敷居はマグネットにしています。

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校	空間デザイン 専攻	縮尺 S=1:50
	1年生	頼涵農

以上10名